

ビブリオバトル

中学生・高校生による ビブリオバトル (知的書評合戦) を実施して

全国で盛り上がりつつあるビブリオバトルを昨年に引き続き「図書館と県民のつどい」で開催しました。ビブリオバトルは、「人を通して本を知る 本を通して人を知る」という知的書評合戦。まさに「図書館と県民のつどい」にぴったりの読書活動です。

1 ビブリオバトルとは？

「ビブリオバトル」とは、バトラーがおススメ本の魅力を5分で語り、観覧者が一番読みたくなった「チャンプ本」を投票で決めるスポーツのような書評会です。

ビブリオバトルは2007年に谷口忠大氏(現立命館大学情報理工学部准教授)によってはじめられました。

「人の脳は自分が話さないと活性化しないのだ。『即興性』を大切に、みんなが探してきた本をレジュメもなく紹介し合い、その中で一番イイ本を勉強すればいいんじゃないか?」という谷口先生の考えのもと、広がっていきました。

ビブリオバトルの面白さは、異なる背景を持った人間同士のコミュニケーションにあります。自分が面白いと思う本を紹介する訳ですから、その人の人柄についても知ることができますし、自分一人で探していたのではなかなか出会うことのできない、意外な本との出会いがあります。

埼玉県でも、埼玉県教育委員会主催「彩の国 高校生ビブリオバトル」が2014年から開催されるなど、広がりを見せています。「図書館と県民のつどい」でも昨年初めて開催し、今回は2回目となります。

2 当日の様子

今回のバトラーは、県内のビブリオバトルの大会に参戦した中学生・高校生にお願いしました。市内でビブリオバトルの大会を開いているさいたま市と三郷市の中学生2名と、「彩の国 高校生ビブリオバトル2015」で上位入賞した高校生3名です。

当日は公式ルールにのっとり、発表5分、質疑2分でビブリオバトルを行いました。

紹介された本は下記のとおりです。

『亡国のイージス』

福井 晴敏 著 (講談社文庫)

『イノセントブルー 記憶の旅人』

神永 学 著 (集英社文庫)

『スターガール』

ジェリー・スピネッリ 著 (理論社)

『ちょっと今から仕事やめてくる』

北川 恵海 著 (KADOKAWA)

『あくびはどうして伝染するのか』

ロバート・R・プロヴァイン 著
(青土社)

中学生のバトラーは緊張しながらも初々しく、経験豊富な高校生バトラーは落ち着いた発表になりました。

チャンプ本には、遠藤七海人さん(埼玉県立越谷南高等学校)が発表した『ちょっと今から仕事やめてくる』北川 恵海 著 (KADOKAWA) が選ばれました。

当日、ビブリオバトルを観戦された方からは、「初めてでしたが、大変楽しませていただきました。発表者たちがいきいきと本を紹介する姿、見ていて気持ちよかったです。」「世代の違う十代の方々の推薦する本に大変興味をもつと同時に、感性の豊かさに感動しました。」「中高生が一生懸命行っており、大人の中で発表するというのは自信にもつながるし、大人も生徒のがんばる姿にパワーをもらいま

ビブリオバトル

した。授業で実践してみます。」等の感想を数多くいただきました。

当日の準備・運営等の御指導をいただきました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

